「生ごみを調理する」ー そのコツ 2

密 閉 容 器

yyyyyyyyyyyyyyyyyyyy

密閉容器では、空気のないところでも働く嫌気性菌を活用して、生ごみを扱いやすいボカシあえに変えます。

密閉容器による処理方法

場所をとらず少量でも処理でき、生ごみを入れるとき密閉容器を開けるとき以外は、臭気はないし、虫の＂被害＂はほとんどないのが特長です。

①空気を遮断するために専用の容器を用いること。
② EM ボカシその他の発酵促進材を使う。
③処理の進むうちに分離して出る水分を取り出す。
④密閉容器から取り出して土とよく混ぜることにより、堆肥化を完成させる。

これらが処理の内容です。

発酵の進む条件を整える

微生物の働きを利用する点で、コンポスト容器等による方法と似ていて、多くの共通点があります。

◆気密性の高い密閉容器が複数あると便利

空気を遮断した状態を長く保つと、嫌気性菌が働いて生ごみを発酵させます。そのために、気密性の高い構造の密閉容器が必要です。

密閉容器に生ごみが一杯になったら１～２週間日陰で熟成させるために、その間は別の容器で生ごみを処理します。容器が２つあると便利です。

◆生ごみの腐敗は大敵

生ごみが腐敗した状態では、多量の雑菌を密閉容器内に持ち込み嫌気性菌が働かないため、失敗に結びつきます。新鮮な生ごみの状態で処理します。

◆発酵促進材の吟味

発酵促進材には嫌気性菌やその栄養源を多く含んでいます。効力がなくなったものの使用や、少量の添加では発酵に支障が出る場合があります。発酵促進材の品質と添加量を常に注意しましょう。

◆堆肥化する場所と時期

密閉容器で出来たもの（ボカシあえ）は、悪臭を発せず腐敗も進みにくいのです。それを、土と混ぜたりして堆肥化しますが、完全に堆肥化するには１ヵ月近くかかるので、使う場所を予め考えておく必要があります。特に、堆肥化の進みにくい冬季が問題です。

◆他の生ごみ処理方法と組み合わせも

生ごみがたくさん出るときや冬場対策に、他の処理方法（電気式生ごみ処理機など）と組み合わせて処理することも有効です。

困ったときは

◆ボカシあえにならない

◇ここでも、生ごみの水切りを入念にします。
◇新鮮な生ごみは毎日(毎食)出ます。その都度密閉容器に入れると、頻繁にその蓋を開けることになります。たくさん生ごみの出る時にあわせて入れる、密閉容器に入れた生ごみは手で押して空気を追い出す、蓋や液取り出し口の気密を点検する等の配慮をします。
◇ EM ボカシ等、発酵促進材の量と質に注意する、夏季では、発酵促進材の添加量を増やし、密閉容器を暑いところにおかない等の工夫も必要と思います。
◇密閉容器が一杯になるまで長くかかるときは、特に熟成日数を十分取り、発酵促進材の量を多目にします。

＜実践例＞土づくりをベランダで

石田　喜美代（多摩平在住）

c 生ごみを入れた後

今、生ゴミの問題が色々取り上げられています。皆さんはどう対処しておられますか？　私は生ゴミ処理機（コンポスト等）を使わずに長年堆肥作りをしております。はっきり覚えていませんが、いろいろなやり方などを工夫して、もう 15 年以上やっています。

私のやり方は、発泡スチロールの箱（スーパー等から貰ってくる、サイズは自由）に、細かくした生ゴミと同量の土をいれ、よくかきまぜて蓋をして置きます。このときコーヒーかすや米ぬか等を入れると良い土に早くなります。生ゴミを細かくするのは早く堆肥にするためで、次の日からは土は入れません、生ゴミだけ入れて良くかき回します。大事なことは生ゴミの水分をよく切ることと、毎日かきまぜて酸素が行きわたるようにすることです。糠漬けをするときは毎日かき回しますよね、それと同じで、酸素が行きわたって良い土を作るためです。

箱の中の土が八分目位になったら新しい箱で新しく作り始めて、前の箱の分は 3 カ月位寝かせます。寝かせている間も毎日忘れずにかき回します。3 ヵ月寝かせたら石灰（私は焼き海苔等に入っている乾燥剤を利用）を少しまぜます。

c 写真上は、空箱利用のミニ花壇兼菜園。ハーブが植えてあった。

[左は、完成間近の生ごみからできた土。発泡スチロールの箱がベランダの片隅に 3 段積み重ねてあった。

石灰を入れて一カ月経ったら市販の肥料（牛糞か鶏糞）を袋の裏に書いてある分量（土に対する割合）にしたがって入れ、よくかきまぜます。そのまま 3 カ月ほど置くと使えます。家に来ているヘルパーさん達も「これが生ゴミから……」とビックリする程の黒々とした良い土になっています。

団地 2 階のベランダで作っている花やハーブ、夏野菜（ナス）など鉢物の土はこれでまかなっています。使った後の土はふるって根などを取り除き、黒い袋に入れて封をしてベランダにしばらく置くと、乾いた（雑菌が少ない）土になります。それを（循環させ）土として使います。

可燃物として出す量も少なくなると思います。皆さんもやってみませんか！

◇ボカシあえにならなくて、悪臭がしたり腐敗した状態のものは、全量取りだして、土に埋めて堆肥化するか、“ごみ出し”に回します。その密閉容器は、次に使う前によく洗っておきます。

◆臭いがする

◇密閉容器を室内に置いて蓋を開けたとき、熟成前のものは臭うことがあります。容器の周辺やその他の容器に付着した生ごみなどからも、臭いは発するかも分かりません。

◇密閉容器による生ごみ処理がうまくいっているか否かの判断は、臭いによることが多いので常に臭いに気を配ります。ぬかみそのような、不快ではない臭いになることが目標です。腐敗臭が気になるときは、発酵促進材を追加してしばらく新しい生ごみの投入を控えます。

◆液肥の引き抜きが面倒

密閉容器内の底にある生ごみが液に浸かってどろどろになり、発酵がうまく進まなくなることが懸念されます。もちろん、必ず毎日引き抜かなければならないものでもありません。状態を見て、適宜引き抜きます。

◆できたボカシあえの使い道がない

十分な量の使える庭先、家庭菜園、園芸用途が得られないとき、冬場でボカシあえの堆肥化が進まないときでは、ボカシあえの状態で“ごみ出し”に回すこともやむを得ないかもしれません。この状態でも、水分が減り量も半分以下になるので、地球環境保全に十分貢献できます。

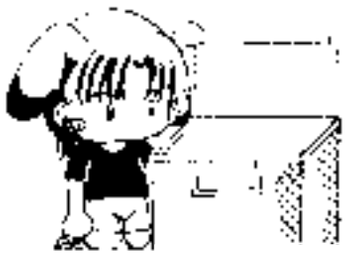
「生ごみを調理する」ー そのコツ 3

電気式生ごみ処理機

yyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyy

ある調査によると生ごみ処理機を使う動機として、ほぼ9割の人が「園芸や家庭菜園に使う堆肥を自分で作りたい」とし、また、8割強が「ごみ減量に少しでも寄与したい」と答えたそうです。

便利で安価になっている電気式生ごみ処理機。上手に使いこなしましょう。



機種の選択が大切です

◆さまざまな機種がある

ここでいう電気式生ごみ処理機とは、電気を動力や熱に変えて、生ごみを乾燥させる、攪拌する、砕くなどの方法で処理して、その量を減らし扱いやすいものに変える機器をいいます。多種多様な機種が発売されていますが、基本的な機能から整理すると下記のようになります。

ここでは、微生物の働きを活用したものと乾燥式のものについて考えます。

最近では、水分センサーや臭気除去機能の付加はもちろん、熟成機能を持ち堆肥化を目指すもの、処理物を連続取り出しできるようにしたもの、80℃にして殺菌と植物の種の死滅を図るもの等々、ますます機能の充実が図られています。

◆使いやすさと環境への優しさのバランスを

◇ベランダや室内に設置もできるコンパクトなものが多く、臭いや虫の害も少なくて自動運転で安全に配慮している等、使いやすさに様々な工夫がなされています。

◇乾燥式はもちろんのこと微生物の働きを利用したものでも、水分の低減による効果が大変大きいといわれます。2000年10月発表の独立行政法人国民生活センターによる「家庭用生ごみ処理機の商品テスト結果」では、微生物による重量の減少分は20.4～35.2%（副資材チップなどの重量減少も含む）程度とのことです。“生ごみが一晩で消滅”は必ずしも微生

◎主な電気式生ごみ処理機の種別

電気式生ごみ処理機	微生物タイプ（微生物式）	微生物資材利用型	バイオ式と言われるもの。チップや各種の微生物資材を添加した容器内に生ごみを入れ攪拌しつつ、加熱して水分を減らし処理する。重量が約1／10に減る。
		自然消滅型	微生物資材利用型とほぼ同じ方法によるが、やや大型の容器を用い、処理物を半年か1年後に全量取り出し入れ替える。重量が約1／10に減る。
	乾燥タイプ	乾燥型	下ごしらえした生ごみを容器内に入れ、攪拌しつつ熱風をかけて乾燥させる。1～2週間ごとに内容物を取り出す。重量が約1／8に減る。
	砕く※	ディスポーザー	集合住宅用。流しの下に取り付け、生ごみを破砕しそのまま流す。各戸からのものをまとめて、下水道に入れる前に排水処理して固形物を取り除く。流しの下に取り付けた装置で、生ごみを破砕し固形物だけこし分けて圧搾
		圧搾・乾燥型	脱水・乾燥して取り出す。

※砕く方式のものは、日野市生ごみ処理機器等購入費補助金制度（p.19）の補助対象になっていません。

物の力だけとはいえません。

◇水分を低減させるエネルギーは電気です。標準家庭（４人）用で乾燥式のもので 30 ～ 700 w 以上、屋外設置型の微生物式で 100 ～ 300 w の電力を必要とします。決して少ない使用量ではありません。

よく働いてもらうために

◇生ごみ処理機によく働いてもらうために下ごしらえは大切です。生ごみの水切りを十分にし、分別して大きなものを細断します。

◇生ごみを投入するとき、生ごみの量、処理物の状態（団子状？　乾きすぎ？　分解しない？）付着物の有無、異音や臭気等をよく観察して、日々の変化をつかんでおき、異常時にその原因を特定する手助けにします。

◇微生物資材の補充、処理物を取り出す時期、取り出し後で生ごみの投入を始める初期の運転モード、フィルターの交換等を取扱説明書によって的確に行います。

◇設置場所は屋内屋外どちらでもよい機種は、屋外に設置するほうが無難のようです。いつも必ずうまく行くとは限りません。

◆堆肥化して土に返すためには

◇微生物を十分に働かせ、土に入れたときに腐敗や病気発生のもととならないようにすることが大切です。特に乾燥式の処理物についてはこの配慮が大切です。

◇乾燥式の処理物の場合、５倍量以上の土とよく混ぜ、１ヵ月（冬は２ヵ月）以上庭先などにおき、熟成させて堆肥化します。微生物式の処理物を堆肥化する場合はやや短い日数でできます。また、処理物のまま使うときは、植物の根に当らない位置に離して埋めます。（西平山在住の佐山さんによる実践例＝ p.20 のように、広い庭では、樹木や畑の元肥として直接使えます。）

４年間元気に働いている自然消滅型さん

困ったときは

◆基本的なこと

◇うまくいかないときにはじっくりとかまえ、一時、生ごみは“ごみ出し”へ、ぐらいの気安さで取り組むようにすることが大切です。

◇便利な電気式生ごみ処理機ですが、決まった能力以上は処理できません。表示されている能力（X kg/ 日、Y / 人用など）は最大値と考えましょう。家庭の生ごみ量は、生活パターンや季節によっても違いますし、水分の多少によって処理できる量に違いが出ます。表示能力の８割位までの量で使うと良いようです。

◇もし、生ごみ処理機の中のものが団子状になったり、強い臭いがしたときは、それらを取り除いて、様子をみます。運転し続けて回復し、処理物が良好な状態になったら、その後に入れる生ごみの量・質を調整しながら使います。

◇電気式生ごみ処理機で出来た処理物を使わないときは、湿らせない限り保存性や衛生的に優れているものなので、ポリ袋に入れて密封しておくか、蓋つきのポリバケツなどに入れ、使うときまで貯めておきます。

◆処理物が団子状に、または処理機が停止

◇投入量が適切ではなかったかもしれません。取扱い説明書に、生ごみの処理能力が書かれているはずです。家庭から出る生ごみ量を計ってみてください。おおよその見当がつけば、腹八分

目の量をめどに入れるようにすると、うまくいくでしょう。
◇大きなものや長いものは細かくしてから入れます。（飲み込む前に良く噛むのと同じです）
◇水切りを良くしてから投入します。水分が多いと腐敗しかねないし、蒸発させる電気料金が余分にかかります。

◆音がうるさい、臭いがする、虫がくる

◇電気式生ごみ処理機には屋外設置型と屋内設置型があります。屋外設置型を選ぶとかなりこの問題から救われます。
◇微生物タイプ生ごみ処理機では、もみ殻燻炭（近くの園芸店で手に入ります）を二つかみ程度入れると、発酵が進み臭いも少なくなります。魚のアラや食べ残しは多量に入れないようにして、数日間生ごみの投入をやめます。

◆処理物は堆肥として使えるの？

◇処理物は十分使えます。それどころか処理物は土を健康にし肥料成分も含まれる貴重な有機資源です。しかし、次の方法などによって堆肥化してから使うようにしなければ十分に活用できません。
◇微生物式の処理物は生ごみの分解しやすい部分を微生物の力で急速に分解したものです。まだ、未分解の有機物を多く残しているので、5倍量程度の良質な土（耕土、園芸用土）によく混ぜ、数週間以上寝かせて堆肥化することが必要です。冬場などを考えると、1ヵ月は寝かせる期間を取りたいものです。
◇乾燥式からの処理物は、単に水分を取り除き重量を小さくした状態のものですから、微生物式のものより入念な堆肥化が必要です。5倍量程度の土とよく混ぜ、必要に応じ、土と同程度の湿り気になるよう散水してかき混ぜ、約1ヵ月（冬は2ヵ月程度）してから使うようにします。

◆処理物の使い道がない

◇庭の樹木や園芸用、家庭菜園にかなり使えます。しかし、冬場のように使わないときもあるので、湿けないようにポリ袋に入れて密封する、あるいは蓋付きのポリバケツ等に保管することも必要になります。
◇十分な量の使える庭先、家庭菜園、園芸用途が得られないとき、場所はあっても冬場で堆肥化の進まないときでは、“ごみ出し”に 回すこともやむを得ないと思います。この状態でも、水分と量が大幅に減っているので、生ごみを“調理した”意味はあります。

◆電気代等がかかり過ぎる

◇生ごみを出さないようにする工夫が第一だと思います。そして、電気を使う最大の要因が水分なので、生ごみの水切りを十分にします。
◇先に紹介した国民生活センターの商品テスト（P.16）によると、一日に生ごみ1kgだす家庭でかかる費用は1ヵ月で757円から1,770円とかなりの幅があります。省エネの機種を探しましょう。（費用はテストした9機種の夏季における最小、最大値。電気代、バイオチップなどの微生物資材、その他の消耗品の合計）
◇タイマーで夜間に運転できる機種があります。この場合、電気料金の安い深夜電力使用で契約ができそうです。約7割に電気料金をすることができます。

◆維持管理に手間がかかる

ペットを飼うように使うこと、といった人がいます。この感覚わかります。微生物と生ごみは生きているのです。機械で処理しても大切に扱うと結果に違いが出るということでしょうか。

情報 2 日野市の生ごみ処理機器等購入費補助金制度について／電気式生ごみ処理機

電気式生ごみ処理機は、消費税を含まない購入価格の 2 分の 1 で、25,000 円を上限に補助を出しています。（一世帯 1 機のみ）

申込みは、毎年 5 月頃に市の広報に掲載し募集します。申込み多数の場合は抽選になります。当選者へは郵送で通知します。購入は日野市内の取扱い業者だけです。なお日野市外で購入した場合や募集前に購入したものは、補助金の対象にはなりません。現在までに取り扱ってきた機種は下表の通りです。

電気式生ごみ処理機一覧

メーカー	機器名称	発酵型	乾燥型
三洋	ゴミナィス	○	
創発	ゴミクック	○	
田窪工業所	地球の友達	○	
ナショナル	リサイクラー		○
日立	ごみパックン	○	
松下電工	生ごみイーター	○	○

＊上記の他、取扱いメーカー・機器は多数あります。価格等は、各販売店にお問合せください。

電気式生ごみ処理機（発酵型）を使いこなしている A さん

平成 10 年 1 月に始まった「みどりと水の市民塾」で出会った A さんは、その頃、ごみ問題をさまざまな角度で研究していた。A さんの事務所に何度か伺ったおり、生ごみの話になった。すると、A さんは、「生ごみと土だけの国分寺方式などいろいろ試してみたけれど、これが一番いい」とベランダの扉を開けて示されたのが、電気式生ごみ処理機（**写真**＝ゴミクック：バイオ式分解消滅型）であった。

生ごみを入れたときだけかすかに作動するが、音は聞こえない。臭いもほとんどしない。業務用の生ごみ処理機のメーカーが家庭用につくった試作品だが、「なかなかいい」と A さんは推奨した。魅力的な処理機だとは思ったが、私自身はすでに密閉式容器で数年以上堆肥化を実施していたし、添加のバイオ剤も高い。それに省エネとはいえ、電気エネルギーを使って処理することに抵抗があった。

先日、久しぶりに訪ねると、事務所に置いてあった機器は、大分前から階下の自宅に置かれ、奥さんが使っているという。確かにご自宅のベランダには、当時の処理機が置かれ、順調に動いていた。

奥さんは、「処理機そのものは使いやすいけど、開けたとき臭いが少々気になるときもあった」という。ふだんは 2 人家族だけなので、生ごみもあまり出ないが、おおぜい客があったとき、無理にたくさん入れたら、臭いがしたという。それからは、水きりをし、大きなものは小さく切って入れるようにしているそうだ。

一方、A さんも、メーカー推奨の専用チップは少々高く、取り寄せなければならないので、奥さんが園芸で使っていたやしがらというチップを入れてみた。半年ほど使っているが、市販品なのですぐ手に入るし、チップの寿命も長い。臭いはあまり出ない。

処理物は、年 2 回出すだけ。ベランダの園芸に使うほかは、知的障害者作業所の虹の家の畑で、もう 3 年くらい前から使っている。今のところ生育に問題ないし、評判は上々だとか。

庭がないベランダにも置けること、操作が簡単であること、半年間は入れるだけでよいこと、はけ口があることなどが成功の要因と思われる。

（中尾ひろえ・記）

＜実践例＞電気式生ごみ処理機による処理の楽しさ

西平山５丁目　佐山　健治

1. 電気式生ごみ処理機の導入

(1) **導入動機**　日野市の「ごみ改革」（H12/10）の２年前、わが家の可燃ごみの中に「生ごみ」がほぼ半分を占め、「生ごみ」の大幅削減が最も大きな課題であった。

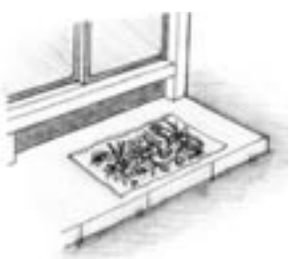
(2) **「生ごみ」**　わが家では、食べ残しがほとんどない。調理くず、野菜くず、魚の頭、骨、皮等が主体である。

(3) **減量対策**　「電気式生ごみ処理機＊」による乾燥肥料化。補助金制度はまだなく自費で購入。

＊リサイクラー〔電動式温風乾燥方式〕MS-N33 ／ナショナル／ H10/11 購入

(4) **実施時期**　H10/11 より～現在に至るも継続中。　⇒　“継続は力なり”

(5) **処理工程**



① **生ごみ発生**

⇒

② **天日乾燥**
省エネのため※１
縁側等に広げる

⇒

③ 乾燥生ごみがある量たまったら
「電気式生ごみ処理機」に投入（今は週１～２回）

⇒

④ **約２時間後**
（減量率：1/5　減容率 1/7）
電気代：約 25 円

⇒

処理機の中で
⑤ **完全乾燥化**
完全抗菌化
ある程度たまって
ほぼ一杯になったら
取り出す

⇒

⑥ 取り出してから
＜工夫した点＞…次の３点を適量まぜる
・庭の(土)　土壌微生物（バクテリア）の活躍を期待して
・米の(糠)　発酵促進材として
・(貝殻)　細かく砕いて
土壌の通気性と保水性の改良材として

⇒

保管場所は屋外
⑦ **保管と熟成**
（冬場：３か月
夏場：１か月）

⇒

⑧ **晴天時　天日乾燥**
（月２～３回）
サラサラになる

⇒

⑨ **完熟**
有機肥料

⇒

⑩
・家庭菜園に
・草花の園芸に　→活用（施肥）
・庭木や鉢物に

※1…東京電力八王子営業所より「電力使用量実績推移グラフ」を（H11 年度以降年１回）入手し、わが家（契約 40A）の実績値と管内平均値との比較をおこなって、省エネに心がけている。過去４年間、すべて平均値以下となっている。

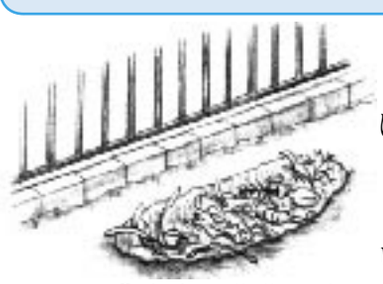
＜生ごみ堆肥化の効果＞
…野菜作りと食べることの楽しさを実感している

・腐葉土（下記自家製）をタップリ鋤き込み、自家製完熟有機肥料を撒く。農薬（除草剤、殺虫剤）や化学肥料を一切使わないわが家の家庭菜園で採れた季節（旬）の野菜は、例えば、
・大皿一杯のほうれん草や小松菜のおひたし
・子どもの頃食べたトマトの味（米のとぎ汁もトマトの根元へ）
・初物のキュウリに自家製の味噌をつけて、ビールのおつまみ……等

至福のひとときを感じている。

2. その他の植物性有機物の堆肥化

(1) 機具等を使わないやり方 …H6/4 より実施



庭に穴（70 ㎝× 1 m × 70 ㎝）を掘って埋める…または庭の片隅に積み上げて堆肥化

①食べ物関連…比較的大きな果物の皮や野菜くずなど

例：スイカ・メロン・甘夏・落花生・たけのこ等の皮、トウモロコシの芯等

②庭木や草花関連…

例：剪定枝、園芸（草花）のくず、切り花、庭の菊・あやめ等の枯れ葉茎、雑草等

（剪定作業 2 回 / 年を、3 回 / 年にすれば、剪定くずは小さく細かいので、庭木の根元に置いておけば、いずれは土に帰ることができる「落葉帰根」の実践！！

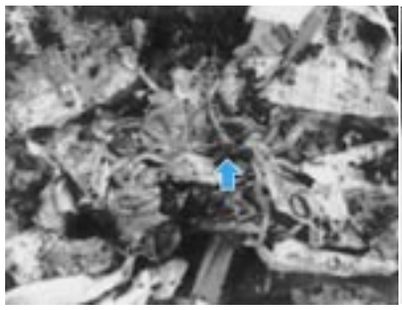
(2) 落ち葉の腐葉土化 …H8/11 より実施

地域清掃（年間 10 ～ 12 回実施） ⇨ 大きな袋で（20 ～ 25 袋） ⇨ 庭に積んでおく 時々糠をまぜる ⇨ 1.5 ～ 2 年後には良質な腐葉土に変身！

3. 実践して感じたこと

・“混ぜればごみ、分ければ資源” “捨てればごみ、生かせば資源”
・ごみ減量に効果あり 有料指定袋 ミニ袋で充分 OK
（わが家＝3 人家族＝の月当たり実績：可燃ごみ袋代 80 円で OK）
・野菜作りは「土』作り 「身土不二」の実践！
・市民一人ひとり……身近なところから、足元から、
できるところから、トライしようではありませんか！！

ミミズで生ごみ処理



ｇミミズが動いている

ブロックの住処 ｇ

日野市で滝合小学校の総合学習で生ごみのミミズコンポスト実験が行われ、「エコー」Vol.12でも紹介されましたが、冬場は休眠状態でした。そこで、東京都産業労働局農業事務所の星野和郎氏にお願いしたところ、写真と説明を送って下さいました。この写真では、ピンク色のミミズは分かりにくいですが、想像して見てください。（編集部）

ミミズで生ごみ減量の実証実験

平成14年10月頃、ミミズを個人的に購入し、当事務所で生ごみ減量化の実証を行っております。材料費はミミズ4000円、ブロック8個、モグラよけ網、ふたのベニヤ板など2000円の計6000円程度です。

週2回程度、家庭の生ごみや事務所の茶殻などを入れています。2～3日で食べきれるぐらいの量を入れていれば、ハエは発生しません。また、夏の暑い時期にも腐敗する前に食べてしまうので臭いも気になりませんでした。この点が発酵させて堆肥化するコンポスト容器等との大きな違いです。ミミズは甘いものが好きで、初冬の時期では柿やリンゴの皮をよく食べます。茶殻やダイコンの葉なども食べますが他に好きなものがあると後回しとなります。また、細かくしてあげると早く無くなります。土の上に置いてあるので、ミミズ以外にもヤスデ、ダンゴムシなど多様な虫がいつの間にか集まってきて、生ゴミを食べてくれます。

しかし、欠点もあります。塩分のある食べ残しは不可。お肉、お魚もダメです。寒くなる時期は、新聞紙を多く入れてミミズが凍らないよう注意します。

簡単な世話で生ごみを減量

1年経った感想は、たまに新聞紙を細かく切って入れるだけで手入れは簡単。ミミズで全ての生ごみをリサイクルしようとしないで、一部でも減量できればという程度の感じで始めるにはよいでしょう。

庭のある方で、夏木陰になる場所に設置すれば失敗しないと思います。生ごみを入れている割にはなかなかミミズの糞がいっぱいにならず、まだまだ今のまま処理できそうです。減量という意味では優等生（？）かもしれません。

群しいことは、ミミズコンポストのホームページを参照してください。http：//home.jps.net/ ～ mimizu/

星野　和郎

（日野市生ごみリサイクル《堆肥化等》推進協議会委員）

農家での生ごみ、基本は循環

「ご家庭の生ごみは、どう処理していらっしゃるのですか？」と当協議会の農家メンバーである小林和男さんに聞くと、「畑に持っていって、積んでおいたり土に埋めたりする。最終的には堆肥にまぜる」という。ただ魚の骨は猫に狙われるから入れないそうだ。

有機堆肥を作っている由木養鶏場では、生ごみは竹林の片隅に穴を掘って捨てる場所を作ってあるので、そこへ持っていく。昔からそうやってきたという。

日野の農家といっても、いろいろで、市街地の中での農地と広い緑地があるところでは、考え方が自ずと違ってくる。また、農法や堆肥の作り方、取り扱う作物によっても違いがあるようだ。

農家は昔からすべて自家処理

日野で唯一の牛舎を持つ百草谷戸の大木国郎さんは、昔からのやり方で、今も生ごみを処理しているという。

「家のすぐ裏山で牛に食べさせる野菜を作っているから、その野菜畑のわきに穴を掘って野菜くずなどを埋めている。1年もすると、土になるからまたそこで野菜を作る。魚などの骨やあらは一度煮てから犬や猫に食べさせたり、野菜くずと一緒に穴に混ぜている。」

積んだ牛糞を切り返す大木さん

昔は、水は大切なものだったので、川では汚れたものは洗わなかったし、風呂の残り湯も一旦溜めておいて雨水などと合わせて田畑に使ったそうだ。

「家の屋敷周りは自分で処理するのが当り前だったから、生ごみなど外へ出すことはなかった。昔は何でも燃やしていたけど、今は燃やせないものもたくさんあって、ごみとのたたかいだ」と嘆く。しかし今でも、基本は循環だという。

まちの生ごみを畑で循環させる
NPO 法人やまぼうしの堆肥づくり

自然と人との共生をテーマに、地域生活支援のネットワークづくりをめざす NPO 法人やまぼうしでは、倉沢と東豊田の 2 ヵ所で野菜・花づくりに取り組んでいます。

まちの生ごみを畑で循環させようと、そば屋さんのサバ節出し殻や市の剪定枝チップ、米ぬかなどを使い堆肥を作っています。他にも、おから、コーヒーかす、調理くずなども少量ですが、入れています。この安心・安全野菜づくりの担い手が障がい者・高齢者です。

倉沢・風の丘の堆肥場

∞∞∞もっと知りたい∞∞∞

●日野市の情報

・日野市　生ごみ処理機器等購入費補助金制度について（11 頁＆ 19 頁参照）
・相談窓口（この冊子についての問い合わせ等）日野市環境共生部リサイクル推進課　電話：042-581-0444
・「コンポスト容器・電気式生ごみ処理機を使用する世帯へのアンケート調査」平成 15 年 3 月　日野市環境共生部リサイクル推進課

●他の自治体の冊子

・「できる『生ごみ減量』を提案します！　―生ごみ減量・リサイクルハンドブック―」世田谷区清掃・リサイクル部ごみ減量課（2003 年 3 月）
・リサイクル＆エコロジー情報紙「AKUTA」多摩市環境部環境管理課（2000 年 12 月）

●参考にした資料等、役立つ情報

この冊子作成に当たり次の資料等を参考にしました。

・「五訂　日本食品標準成分表」 独立行政法人　日本科学技術振興機構（2002 年 3 月）
・「堆肥の作り方・使い方―原理から実際まで―」藤原俊六郎著　（社）農山漁村文化協会（2003 年 3 月）
・「家庭用生ごみ処理機の商品テスト結果」独立行政法人　国民生活センター（2000 年 10 月）
・写真（p.17）「4 年間元気に働いている自然消滅型さん」NPO 法人高齢者住居問題研究会　青山氏宅

●書籍／冊子等

・『これでわかる　生ごみ堆肥化　―知っておきたい 88 の理論と実践―』NPO 法人有機農産物普及・堆肥化推進協会編　合同出版（2002 年 6 月）
・『だれでもできる　生ごみ堆肥化大作戦』有機農産物普及・堆肥化推進協会編　合同出版（1999 年 8 月）
・ブックレット『生ごみリサイクルのすすめ』 NPO 法人有機農産物普及・堆肥化推進協会（2003 年 6 月）
・『生ごみ　堆肥　リサイクル』岩田進午、松崎敏英著　家の光協会（2001 年 6 月）
・『用土と肥料の選び方・使い方』加藤哲郎著　㈳農山漁村文化協会（2001 年 2 月）

●市民団体

・NPO 法人有機農産物普及・堆肥化推進協会　東京都港区元赤坂 1-5-1 ミヤナガビル 201TEL03-5410-3735
・NPO 法人ごみ・環境ビジョン 21　東京都国分寺市南町 2-17-5　富沢ビル 3-G　TEL&FAX042-328-6621
・川崎・ごみを考える市民連絡会　川崎市麻生区上麻生 2-5-7　飯田和子方 TEL&FAX044-955-2533
・小金井のごみを考える会　トンボの会　東京都小金井市東町 5-24-13（向井方）　TEL&FAX042-383-6530

♧生ごみ冊子の作成を終えて

生ごみの堆肥化は、下ごしらえから始まる調理に似ていると、「生ごみを調理する」というメインテーマが決まりました。一口に生ごみの堆肥化といっても、ピンからキリまであり、面倒だから「可燃ごみ袋」へ入れてしまう人も多いのです。確かに堆肥化へのノウハウはさまざまに研究され、ある程度確立しています。しかし、実際には、電気式生ごみ処理機を使いこなせない人がかなりいます。この冊子を、そんなちょっとした困ったときにひもとく手引き書にしてほしいと思います。

日野市では、環境基本計画を市民参画で策定して以来、いろいろな分野で市民と行政の協働により計画策定や事業が進められています。「日野市生ごみリサイクル（堆肥化等）推進協議会」がこの冊子を発行することになったのもその協働作業の一環です。具体的な企画・編集は、担当職員も参加した「まちの生ごみを考える会」が受け持ちました。

本冊子が皆様の生ごみマニュアルとして活用され、生ごみが少しでも循環されることを期待しております。

まちの生ごみを考える会
代表　中尾　ひろえ

日野市生ごみリサイクル（堆肥化等）推進協議会 / 委員（敬称略、平成 15 年度）

原　耕造（会長／JA 全農）	小菅　順二（市民）	岩崎　康夫（都 / 農業改良普及センター）
和田　博（農家／東光寺）	朝倉　三憲（東京南農協 / 日野）	
小林　和男（農家／平山）	横溝　義昭（東京南農協 / 七生）	笹木　延吉（市 / 環境共生部長）
伊藤　通夫（農家／堀之内）	丸山 まり子（小学校栄養士）	入手　喬（市 / 市民生活部長）
中尾　ひろえ（市民）	丸　裕子（中学校栄養士）	國栖　光雄（市 / 学校教育部）
簇野　治男（市民）	荒川　雅彦（給食調理員）	七尾　幸人（市 / まちづくり推進部）
藤田　幸恵（市民）	星野　和郎（都 / 農業事務所）	

＜事務局＞市民生活部産業振興課、環境共生部リサイクル推進課、㈲循環資源・環境ビジョン研究所

＜まちの生ごみを考える会＞

伊地知　仁子（百草）
萱嶋　信（大坂上／市環境保全課）
川崎　力（旭が丘）
小菅　順二（南平）
佐藤　美千代（新井）
佐山　健治（西平山）
鈴木　直人（百草）
中尾　ひろえ（三沢）
藤田　幸恵（百草）
松山　禎之（NPO 法人やまぼうし）
小林　寿美子（市リサイクル推進課）
松本　和江（市リサイクル推進課）

表紙・イラスト等：喜田芙美雄氏（落川在住）
イメージキャラクター等:小林麻美さん（西平山在住）

発行：平成 16 年　3 月
発行者：日野市生ごみリサイクル（堆肥化等）推進協議会
〒 191-0022　東京都日野市新井 210-2
日野市環境共生部リサイクル推進課内（4 月から「ごみゼロ推進課」）
TEL　042-581-0444　FAX　042-586-6606
編集：まちの生ごみを考える会（まちづくりフォーラム・ひの）
〒 191-0032　東京都日野市三沢 850-24-402
TEL & FAX　042-593-8797

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association
R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています